



すこやかさん!



このコーナーでは、健康で元気いっぱい、笑顔いっぱいの素敵な人・素敵な仲間をご紹介します。



心から響きあう心地よさ

今回ご紹介するのは桜井市役所にお勤めの松田浩資さん。日本の伝統芸能である「和太鼓」に日々情熱を注ぎ、多くの人に感動を与えています。そんな松田さんの元気の源を探るべく、お話を伺ってきました。

きっかけは、子どもたちの姿

私は、「初瀬太鼓鱗角舎」で和太鼓を楽しんでいます。このサークルは、和太鼓を通して地域交流をめざしており、これまでに地元のイベント(祭り・文化祭等)だけでなく、県内の老人ホームやNPO、それに保・幼・小・中学校などでの催し等で発表を重ねてきました。

私が和太鼓をはじめたきっかけは、職場(桜井東こどもセンター)で小学生の和太鼓サークルの担当を任されたことからです。当時の私は、和太鼓にはまったく興味がなく不安が先立っていたのですが、楽しそうに太鼓を響かせる子どもたちの姿に触れて心が躍る感動を覚えました。見よう見まねで子どもたちに教えてもらいながら曲を覚え、そのうちに和太鼓の魅力に惹かれていきました。やがて、保護者や保育士さんたちから「私もやってみたい」という声上がり、練習を重ね、数年後に「初瀬太鼓鱗角舎」を発起しました。

~微力でも地域に貢献できれば~



「初瀬太鼓鱗角舎」のメンバー構成は、学生・地方公務員・保育士・教師・福祉関係者・自営業・会社員・主婦と多種多様で、年齢も14歳から50歳代と幅広く、世代間の交流も深めています。また、障がいを持つ仲間も参加しています。中学生や高校生の、技術だけではなく心の成長を見る

のも私の大きな楽しみのひとつです。

そして、地域で発表の機会を与えていただくことで、私たちと地域の人たちとの交流が深まり一体感も生まれています。そのことが、桜井市初瀬地域の「村おこし」や「活性化」さらには、「地域の教育力の向上」に微力ながらも貢献しているという実感を持つことができ、私自身充実した生活を送ることができています。

和太鼓に出会えてよかった

和太鼓は日本の伝統芸能ですが、技術だけでなく体力が求められます。一曲叩くと、息は上がりクタクタになります。そういった意味では、スポーツの雰囲気をも併せ持っています。

また、個人の技術うんぬんではなく、打ち手であるみんなの心をひとつにして叩かないと観衆に感動を与えることができません。最初の音からはじまって最後の礼まで、全員の気持ちがこもった躍動感のある演奏が求められます。まだまだ技術の未熟なサークルですが、それでも「太鼓の響きに感動した。」「体が震える興奮を感じた。」と泣いて喜んで下さる地域の方やお年寄りもおられました。そんな時は、「自分も相手も感動することができる和太鼓に出会えて本当によかった。」と、つくづく思うと同時に、「和太鼓をするために集うのではなく、みんなとつながる手段として、大好きな太鼓で響きあっているんだ。」ということの喜びを体感しています。

今後は、チームの仲間をもっと増やし、演奏技術のみがくとともに「心から響きあうことの心地よさ」を、少しでも多くの人たちに伝えていければと思っています。

また、そのことによって私自身が生きがいを感じ、逆にチームの仲間からパワーをもらうことができ、日々リフレッシュした気持ちで仕事にも普段の生活にも望むことができます。

